

「ドイツよ、お前もか」一。ドイツの自動車メーカー大手フォルクスワーゲン（VW）の不正な排ガス規制逃れは、有名会社の相次ぐ不祥事に慣れっこになっている日本人にも大きな衝撃を与えた。

2015年1～6月のグループ世界販売台数でトヨタをしのいで世界一の座についていたし、ドイツは環境問題への取り組みで世界の範になっていたからである。

VWはヒトラーの「国民車（フォルクスワーゲン）構想」に基づき1937年、国営企業として発足、60年に民営化した。主力車種は「ゴルフ」「パサート」で、傘下に「アウディ」や「ポルシェ」など12ブランドを持つ。

敗戦後に生産を始めたカブトムシ型の「ビートル」は、ドイツだけでなく世界中で人気を集め、日本でも親しまれた。

グループ全体で欧州20か国（ロシア、トルコを含む）に72工場と43万8千人の従業員を抱える。14年末の世界販売台数は1,014万台。

■違法ソフト組み込み

発覚のきっかけになったのは、米ウェストバージニア大が2013年春、VWのディーゼル車の排ガスに含まれる窒素酸化物（NOx）を測定してみたところ、ハンドルを動かして走行中には米国の基準より最大40倍数値が高いのに、動かしていない時には低いことが分かり、違法なソフトが組み込まれていることが判明したからである。

VWは当初、この事実を認めなかったものの、15年9月初め正式に不正を認めた。

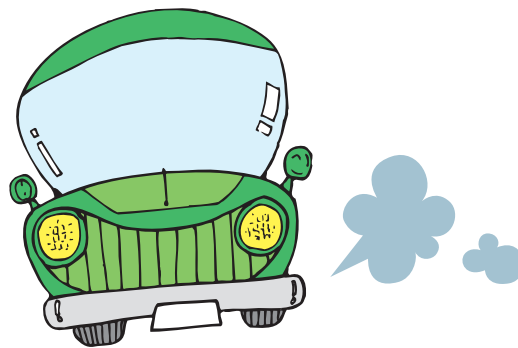
ディーゼル車への米国のNOx規制は、ガソリン車と同じレベルで、欧州や日本よりはるかに厳しい。VWはこの規制をクリアする技術を備えていたのに、このソフトを使ったのは、例のない悪質さで聞いたことがないと専門家は指摘する。

リコールの対象になる不正車は、米国で48万台、EU28か国で850万台（うちドイツ240万台）で、最大1,100万台。「ゴルフ」「パサート」などのほか系列メーカーの高級車「アウディ」「ポルシェ」にも疑惑が持たれている。幸い日本はガソリン車が大半なので、極めて少ない。

VWはまた、二酸化炭素（CO₂）の排出量データを少なく見せる不正行為もあったと発表、対象車80万台のうち9.8万台がガソリン車（ドイツ政府）とされ、排ガス不正問題はさらに拡大の様相を見せている。

リコール費用、米当局の制裁金約180億ドル（約2兆円）、株所有者の集団訴訟などVWの負担費用は全体で約780億ユーロ（約10兆円）に上ると、クレディ・スイス証券は試算する。

なぜ、いつから始まったのか、経営陣の誰が関与しているのか、不明な点はまだまだ多い。



筆者紹介



大津彬裕（おおつ・よしひろ）
東京教育大学卒。昭和37年読売新聞社入社。社会部・外報部・解説部記者を経て、共同PR社顧問。元PRコンサルタント。慶応、玉川、相模女子大学非常勤講師を歴任。「ブランドは広告でつukれない」（翔泳社、共訳）など、著訳書多数。